

## 平成29年度事業計画

平成 29 年度事業計画と予算は平成 28 年 12 月 15 日の理事会で承認された（予算は平成 29 年 2 月 3 日理事会で修正）ので以下に報告する。

### 1. 管理運営

#### 1.1 総会

総会は定時社員総会として事業年度終了（12 月 31 日）後 2 カ月（2 月末日）以内に開催する。総会では事業報告及び決算の承認、定款の変更、理事の選任他の重要事項を決議する。

#### 1.2 理事会

平成 29 年度中に、2 回あるいはそれ以上理事会を開催し、事業計画・収支予算、事業報告・決算の審議承認の他、社員総会の招集、規則の制定、変更、本会議の職務執行の監督、役付役員を選定等の審議・決定等を行う。

#### 1.3 企画委員会

企画委員会を適宜開催し、以下の業務を行う。

- ① 会長の作成する事業計画書の内容となる事業等について検討し、会長に報告
- ② 大ダムに係る調査研究等の成果の紹介及び普及啓発のための企画案作成

#### 1.4 技術委員会

技術委員会を適宜開催し、以下の業務を行う。

- ① 大ダムに関する調査研究
- ② 国際的な技術交流等に関する計画案を作成

### 2. 事業

定款第 4 条に定める次の事業を行う。

- ・大ダムに関する情報収集、調査及び研究
- ・大ダムに関する技術の交流及び指導
- ・国際大ダム会議への参加及びその活動に対する協力並びに大ダムに関する国際技術交流
- ・大ダムに係る調査研究等に係る成果の紹介及び普及啓発

#### 2.1 国際大ダム会議等国際交流事業

##### 2.1.1 ICOLD 第 85 回年次例会(チェコ共和国・プラハ)参加

2017 年 7 月 2 日(日)から 7 日（金）までチェコ共和国・プラハで開催される ICOLD 第 85 回年次例会に参加する(表-1)。さらに技術委員会に参加し、情報交流する(表-2)。また、ICOLD 地域クラブのひとつである「アジアパシフィックグループ(APG)」の会議に参加し、当地域のダム情報交換と技術交流活動を推進する。技術展示会については、JCOLD ブースを 2 区画予約しており、我が国のダム技術を海外に紹介する。

表-1. 全体プログラム

メイン会場：クラリオン コンgressホテル プラハ

月日	行事	ツアー、文化行事など
7月2日(日)	登録受付開始	
7月3日(月)	技術委員長会議、若手技術者集会(YEF) 技術展示会開会式、技術委員会ワークショップ	歓迎レセプション
7月4日(火)	技術委員会、地域クラブ	若手技術者懇親会
7月5日(水)	国際シンポジウム、技術展示会閉会式	文化行事
7月6日(木)	テクニカルツアー	
7月7日(金)	総会、技術委員会ワークショップ	送別晚餐会
7月8日(土)	ポストツアー 出発	

表-2. 技術委員会への参加

A. ダム解析設計における計算問題委員会	野口 博章
B. ダム設計における地震問題委員会	佐々木 隆
C. ダム水理委員会	高塚 哲
D. コンクリートダム委員会	山口 嘉一
E. フィルダム委員会	田頭 秀和
F. 水資源計画エンジニアリング委員会	川崎 秀明
G. 環境委員会	北村 匡
H. ダム安全委員会	木戸 研太郎
I. ダムを取り巻く公衆の安全委員会	濱口 達男
J. 貯水池堆砂委員会	佐藤 正俊 角 哲也(Co-opt)
K. 水力発電統合運用委員会	山根 雄一
M. ダム運用・維持および補修委員会	中山 浩章
N. 広報・教育委員会	坂本 忠彦
O. 世界ダム台帳・文書委員会	松本 徳久
P. セメント混合材料ダム委員会	吉田 等
Q. ダム監視委員会	高野 準
S. ダムの安全のための洪水評価委員会	柏柳 正之
T. ダムの将来見通しと課題特別委員会	福渡 淳一
U. ダム及び河川流域の管理委員会	箱石 憲昭
W. ダム形式の選定特別委員会	安田 成夫
Y. 地球気候変動とダム委員会	筒井 純一
若手技術者集会 (YEF)	山本 浩樹

## シンポジウム

### KNOWLEDGE BASED DAM ENGINEERING 最新の知見によるダム技術

#### シンポジウムテーマ

No.	原文	和訳
1	Investigation and application of advanced materials, technologies and solutions in dam engineering	ダム技術における進歩した材料、技術、解決策の調査研究と適用
2	Enhancements in dam surveillance systems for dam safety and site security	ダムの安全とサイトの保安のための監視システムの強化
3	Uncertainties and risk-informed decision making in dam design, construction and operation	ダムの設計、施工、操作について、不確実性とリスク分析に基づく意思決定
4	Balancing technical, socio-economic and environmental aspects of dam engineering	ダム技術における技術、社会経済、環境のバランスの取り方
5	Advancements in analysis and design within flood protection reservoirs, levees and tailing dams	洪水防御貯水池、堤防、鉱滓ダムの解析と設計上の進歩
6	Recent improvements and modern applications in reservoir and catchment management	貯水池ならびに流域の管理について最近の進歩と最新の応用
7	Design and operational considerations of global climate change, regional droughts and other extreme events	全地球的な気候変動、地域的な渇水およびその他の異常な出来事に対する設計と操作の対応
8	Assessment of aging dams considering remaining service life and decommissioning	老朽化したダムについて、残存供用期間と廃棄を考慮した評価
9	Hydro-electro-mechanical equipment of dams	ダムの機械電気設備

## 2.2 調査研究事業

### 2.2.1 ダム建設状況調査

平成 29 年 3 月 31 日現在の工事中のダムについて「大ダム調査表」により調査し「ダム建設状況調査表」にまとめ会誌「大ダム」に掲載する。

### 2.2.2 ダム施設概要調査

平成 28 年 4 月 1 日より平成 29 年 3 月 31 日までに竣工したダムについて調査し「ダム施設概要調査表」を作成する。

上記 2.2.1 および 2.2.2 の調査の成果を ICOLD 技術委員会 “Committee of the World Register of Dams and Documentation”に報告する。

### 2.2.3 ダムコンクリート凍害実験研究分科会

平成 29 年 6 月：今年度調査方針確認

平成 29 年 12 月：第 55 回凍害実験研究分科会

## 2.2.4 既設ダム機能活用検討分科会

「地球気候変動とダム分科会」第2フェーズの提言を踏まえ、地球温暖化に伴い気候が変動する状況下で、リスクを最小限にしつつダムの機能を最大限活用する合理的なダムの管理運用操作について、以下のWGを設置し、関係資料の収集・分析を進める。

### (1) 合理的管理運用 WG (検討項目)

- ①ダムの連携操作・統合運用およびダムの再編成の検討
- ②ダム機能発揮のためのきめ細やかなダムの管理運用操作の検討
- ③人的な資源の制約下でのダムの遠隔操作・自動操作の検討

### (2) 潜在能力活用 WG (検討項目)

- ①設計水位に関する従来基準等の考え方の整理
- ②最大貯留可能量に関する検討
- ③ダム機能発揮のためのきめ細やかなダムの管理操作運用の検討

### (3) 分科会の検討スケジュール

- ・分科会発足 WG 設置 (平成 28 年 7 月 28 日)
- ・第 2 回分科会 WG 検討状況報告 (平成 29 年 2 月)
- ・第 3 回分科会 WG 中間報告 (平成 29 年 8 月)
- ・第 4 回分科会 報告書 (案) とりまとめ

## 2.2.5 ダム設計基準調査分科会

当会議のダム設計基準は初版が 1957 年に発行され、1971 年に改定設計基準、河川管理施設等構造令が 1976 年に制定されたことを受けて 1978 年に第 2 次改定設計基準が発行された。構造令制定後 40 年、第 2 次改定基準発行後 38 年が経過しているが、この間、施工、解析、調査等の分野でダム技術の進歩があり、社会経済情勢も変化し、温暖化によると思われる降雨の激化や大規模地震の頻発等が起きている。海外においては 2000 年頃以降、米国の開拓局、工兵隊は設計基準を改定し、その他の国でも設計基準を更新している。したがって最近の海外の設計基準・指針類を収集整理し、さらに我が国のダム建設の経験、知識・情報の集積を考慮して現行の設計基準を全般的にレビューし、改訂すべき点、追加すべき点等について検討を行い、提言をまとめることを目的として当分科会を設置するものである。

なお、具体的には以下 4 つの WG を設置し検討を進める。平成 28 年 10 月 11 日に準備会を開催し、平成 29 年 2 月 1 日 (水) に第 1 回委員会を開催する。

### (1) 地震 WG (レベル 1 地震、レベル 2 地震、海外耐震規定)

### (2) 洪水 WG (設計洪水、PMF、気候変動)

### (3) 既設ダム WG

(再開発、補強、機能向上などに対する設計基準の適用性、既設ダム安全性評価)

### (4) 新形式のダム WG

(CSG、CFRD、AFRD、表面遮水壁型は新形式ではないが位置づけを明確にする必要がある)

## 2.3 内外情報発信事業

### 2.3.1 会誌「大ダム」の発行

平成 29 年度においては、企画委員会編集分科会の編集方針に基づき、会誌を 4 号発行する予定である。

ICOLD チェコ共和国・プラハ第 85 回年次例会開催案内と報告、同シンポジウム発表論文紹介、ダム技

術講演討論会概要等を掲載し、日本大ダム会議の活動及び内外のダム技術関連情報等を会員及び一般購読者等に広く紹介する。

### 2.3.2 広報・環境分科会の検討

#### (1) 分科会における「環境」への取組み

ダムに係る環境問題のメリット、デメリットを正しく評価し、又はデメリットを可能な限り軽減する手段を調査研究し、その結果を一般社会に発信することが重要な課題である。このため、ICOLD 技術委員会（環境委員会他）での過去の論文等を参考にした各国の取り組み状況調査を行う。

#### (2) ダム及びダム技術の広報

① 平成 23 年度から実施している広報連絡会を通じた関係団体との広報等の情報交換を引き続き実施し、効率的、効果的な広報の実施に取り組む。

② HP の更新を適宜実施するとともに ICOLD 等での提供資料（Dams in Japan、最新の日本ダム技術等）を HP に掲載し、会員および国内外に向けて情報発信の充実を図る。

#### (3) 地球の歩き方「インフラ見学シリーズ」について

国土交通省からの提案の「地球の歩き方インフラ見学シリーズ」について「ダムの楽しみ方調査 WG」を設置し、書籍発行（平成 29 年 7 月）に向けた内容検討の実施。

[参加団体] 水源地環境センター・日本ダム協会・ダム技術センター

(オブザーバー) 国土交通省 水管理・国土保全局 治水課、河川環境課

## 2.4 技術交流・指導事業

### 2.4.1 ダム技術講演討論会

第 50 回ダム技術講演討論会を、一般社団法人日本大ダム会議と一般社団法人ダム・堰施設技術協会の共催で 11 月末～12 月初旬に開催する。開催に当たっては、50 回記念講演会としてプログラム充実を検討するとともに、会員はもとよりダム技術関係者に幅広く参加を呼びかける。

### 2.4.2 ダム現場見学会

ダム現場見学会は、平成 19 年度からダム工学会と共催で秋季に実施しており、平成 29 年度も見学を行う予定である。